

二十七歳の暮れ

この一年 僕の身長はいぜんとして一七五センチであった
体重は六七キロを超えることがなかった

近眼の度はやや進んだが

とりわけひどい不自由はなかった

この一年 僕は三人の新しい友を得

二人の古い友を失った

数十人の人びとと共に仕事をし

数百人の人びとと必要な話をし

数千 数万の

ただ同じ時 所にいただけの人びとと

朝に日に夕にさまざまの出会いをした

しかし とりたててすばらしい出会いはなかった

この一年 僕は生まれて初めての講演を二つこなし

三つの調査報告をまとめ

四県を旅した

しばしばスランプに陥り 自信を失くし

お先真暗の日々もあったが

死ぬ程のことはなかった

この一年 僕は亡き母を恋い

生きている父を偲び

病んでいる弟を想い

心が千々に乱れることもあったが

空を流れる雲や 朝日夕日に励まされて

道を踏み外すことはなかった

この一年 僕はそれ程不幸ではなかったが

さして幸福でもなかった

この一年 僕は歳月の早さをとくに感じた

年の終わりに この平凡な一年を僕は静かに見送る

二度と還らぬ二七歳のこの年を送る

(一九五六・一一)